

# 盛岡となん支援学校

## 研究テーマ

「つなぐ～個別最適な学びと協働的な学び～」

(3年次研究3年目)

### 1 主題設定の理由

目の前にいる子どもたちの実態から、一人一人の子どもが主語になる学校教育を目指すべく、これまで以上に多様性を尊重し、誰一人取り残さないよう、様々なことやものをつなぎ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指す。

### 2 研究の目的

#### (1) 3年次研究共通の目的

本校における児童生徒の障がい(肢体不自由、病弱)の多様化が進む中、「つなぐ」をキーワードにし、各グループの児童生徒の実態に応じ、指導方法・教材の検討により、効果的な指導の実現を目指していく。共通の取組としては、児童生徒の興味関心を基にした一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む「個別最適な学び」とそこでつけた力を生かし、探究的な学習や体験活動を通して、他者と関わりながら必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」の実現をグループごとに目指す。

#### (2) 3年次の重点

「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、さらにその成果を「個別最適な学び」に還元するなど「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指す。また、「つなぐ」効果の検証を行う。

### 3 研究内容および方法

#### (1) 全体研究会

3年次研究の全体構想や今次研究の構想について共通理解を図る。また、教職員個々の研究実践の共有や全体研究の評価を行う。

#### (2) アンケート調査

職員のグループ編成、研究内容の理解や意識の変容についてのアンケートを行い、今次及び3年次研究の成果や課題をまとめる。

#### (3) グループ研究

##### ① 準ずる教育課程

「小・中・高をつなぐ～夢の実現プロジェクト」をテーマに、「個別最適な学び」の充実のための評価システム及び「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の検討を行う。

##### ② 知的代替の教育課程

「指導と評価をつなぐキャリア教育」をテーマに、児童生徒の学習状況の把握及び指導形態の検討、「合わせた指導」の指導内容と各教科との関連の整理を行う。

##### ③ 自立活動を主とする教育課程

「実態把握と授業づくりをつなぐ～となん式システムづくり」をテーマに、児童生徒の学習状況の把握及び実態把握に基づいた国語科の授業実践と授業構想の検討を行う。

##### ④ 訪問教育部つばさ(在宅、施設訪問)

「学びをつなぐ教材・教具」をテーマに、訪問生同士の学びをつなぐ学習において教材・教具を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指す。

##### ⑤ 訪問教育部てんくう(医大児童精神科)

「復学につながる支援のあり方～関係機関との連携をとおして～」をテーマに、小集団学習をとおして「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指す。

##### ⑥ 訪問教育部あおぞら(医大小児科)

「復学につながる支援のあり方～関係機関との連携をとおして～」をテーマに、事例を重ね、協働的な学びの共有と、本人、保護者、原籍校とより良く「つなぐ」効果の検証を行う。

##### ⑦ 寄宿舎

「一人一人の良さを生かした寄宿舎生活のあり方～関わり合いながらなりたい自分になるために～」をテーマに、実態把握とアセスメントの充実を図りつつ、対話を重視した活動実践を行う中で、寄宿舎における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指す。

### 4 講演会

演題：「肢体不自由教育の課題と求められる実践」

講師：日本体育大学一身体に纏わる文化と科学の総合大学一 体育学部 特別支援教育 教授 長沼 俊夫 氏

期日：令和5年8月1日(火)

参加者：109名

### 5 刊行物

研究集録をホームページにて公開する。